【純シリコーン 100%樹脂塗料】
「バッファーコート 10K 塗装システム」(建築用)

施　工　要　領　書

株式会社クラタ・テクノシステム

1.　総則

1ー1　適用範囲

この作業要領書は、純シリコーン 100%樹脂塗料バッファーコートを使用する工事に適用する。

1ー2　適用図書

純シリコーン 100%樹脂塗料バッファーコートは、下記の仕様書に基づいて施工する。

工事の建築設計図書及び特記仕様書

1ー3　要領書の変更及び追加

本作業要領書の内容について、変更、訂正が生じた場合、あるいは記載外事項で重要な問題が生じた場合は、速やかに変更、あるいは追加を行う。さらにそれらの項目について関係作業員への周知徹底を図り必守する。

2.　一般事項

2ー1　工事概要　折板屋根修繕塗装工事

工事名称　折板屋根修繕塗装

工事場所　＊＊＊＊＊

発注会社　＊＊＊＊＊

工　期　　年　月　日　～　　年　月　日

2ー2　工事概要

1）塗料種類

純シリコーン 100%樹脂　溶剤型コーティング材　バッファーコート 10K（1 液型）

純シリコーン 100%樹脂　溶剤型コーティング材　バッファーコート 85K（2 液型）

希釈剤　バッファーコート専用シンナー

（※通常の塗料用シンナーはグレードによりアルコールが混入する場合があるの使用厳禁）

2） 部位・数量

部　位	数　量	施 工 場 所
折板屋根修繕 その他補修部位	1 式	

3.　塗装仕様

株式会社クラタ・テクノシステム
純シリコーン 100%樹脂溶剤型コーティング材　　バッファーコート鉄部防錆・防水仕様

4.　使用材料

4−1　使用材料

工　程	樹 脂 系	商 品 名	希 釈 剤
下　塗	純シリコーン 100%樹脂	バッファーコート 10K	—
中　塗	純シリコーン 100%樹脂	バッファーコート 10K	—
上　塗	純シリコーン 100%樹脂	バッファーコート 85K	—

＊バッファーコート 10K、85K は希釈せずに使用することを基本とし、高温下 30℃以上で施工する場合は 0〜5%以内であれば、希釈剤（バッファーコート専用シンナー）で希釈可能とする。ただし希釈は 5%を超えないようにすること。

4−2　塗装仕様

工 程	品　　名	塗 布 回 数	標準使用量 (kg/㎡)	塗布間隔 (23℃)	希 釈	塗 布 方 法
下地調整	プライマー使用の場合、専用プライマーを使用の事、一般製品は基本的使用不可。 高圧水洗機等を用いてカビ、藻、汚れ、油脂分を除去する。浮き錆、膨れを完全に除去する。 活膜部分は目粗を十分に行う。不具合部分は別途定める方法により復元する。 注 1) 参照					
下 塗	純シリコーン 100%樹脂 1液型 バッファーコート 10K	1 回	0.3	12 時間以上 10 日以内	—	ローラー及び刷毛
中 塗	純シリコーン 100%樹脂 1液型 バッファーコート 10K	1 回	0.3	12 時間以上 10 日以内	—	ローラー及び刷毛
上 塗	純シリコーン 100%樹脂 2 液型 バッファーコート 85K	1 回	0.15	12 時間以上 10 日以内	—	ローラー及び刷毛

注 1）　・残存塗料部位は動力機器で、十分目粗しをして、必要ならプライマー塗布すること。プライマーは

バッファコートプライマーC を使用する。ローラー及び刷毛で塗布量 0.1kg/m2 塗布する。
・可使時間(30℃以上):早朝など少しでも涼しい時間帯での施工をお願いします。
・可使時間(30℃):バッファーコート 10K は 30 分～45 分
・可使時間(23℃):バッファーコート 10K は 60 分～90 分
・塗布間隔について上限 10 日以内としているが、品質上の問題ではなくこれ以上開けると表面に汚れが付着する恐れがあるため、規定している。従って間隔を空けた場合は適切な洗浄を行えば塗布は品質上全く問題なく塗布が可能。

5. 施 工

5ー1 施工

下地処理	素地状況により3種ケレン以上を行ない、浮き錆を完全に除去する。活膜部分には目粗を行う。高圧水洗でゴミ、油脂、汚れなどの付着物を除去する。 注 1)参照
↓	
下 塗	バッファーコート 10K ローラー、刷毛などを持用いて飛散に注意し、ムラ無く塗布する。 雨天時、降雨時直後で下地に水分がある場合は作業を中止。
↓	
中 塗	バッファーコート 10K ローラー、刷毛などを持用いて飛散に注意し、ムラ無く塗布する。 雨天時、降雨時直後で下地に水分がある場合は作業を中止。
↓	
上塗り	バッファーコート 85K 硬化剤を十分に攪拌した後、秤を用いて適量を出し、10:1 の割合で混合、攪拌する。ローラー、刷毛を用いて飛散に注意むら無く塗布する。 雨天時、降雨時直後で下地に水分がある場合は作業を中止
↓	
後片付け	材料、ごみ等決められた場所に保管整理し、使用した仮設材を片付け、作業前の現状通り復旧する。 工具類は所定の場所に保管、若しくは持ち帰り、作業の点検を実施し報告する。

注 2) 容器内の四隅、壁など滞留しやすい箇所は特に注意して 1 分くらい攪拌する。

5－2 品質管理

1） 塗装の管理は、材料の量及び膜厚の管理及びロット確認、仕様書の厳守。

2） 単位使用量・施工

作業概要			
作業区分	工　　程	施工管理項目	
下地補修	下地確認	・浮き錆、膨れ除去する	―
下　塗	バッファーコート 10K	・使用量/㎡あたり使用量	使用量：0.3kg/㎡
中　塗	バッファーコート 10K	・使用量/㎡あたり使用量	使用量：0.3kg/㎡
上　塗	バッファーコート 85K	・使用量/㎡あたり使用量	使用量：0.15kg/㎡
検査補修	使用材料が仕様書通りに使われているか必ず確認する。 塗残しや斑などがある場合は注意観察し増し塗りして均一になるように補修する。 塗装間隔20℃における目安になります。前塗装が十分乾燥したこと(指触乾燥レベル)を確認する。 バッファーコート 10K、85Kは希釈せずに使用することを基本とし、高温下 30℃以上で希釈する 場合は希釈剤(バッファーコート専用シンナー)を使用する。その際希釈率は 0～5%以内とする。 5℃ではバッファーコート 10K は1コート/2 日。 膜厚の薄い箇所、エッジ部、立ち上げ部などはタッチアップして増し塗りをする。		

3） 材料は発注者の承認する製品とし、開封しないまま現場に搬入し、確認を受ける。

4） 材料の保管については、取り扱い責任者を置き、災害防止に特に注意する。

バッファーコートなど使用材料は全て絶対に雨などで濡れる事の無いように保管し高温になる場所は避けて保管する事。

5） 資材の荷揚げを行う時は、外壁・階段などにキズ等付けないよう行う事。

6） 塗装時の塗膜確認

※塗膜管理は膜厚より使用量を優先すること。

６.　使用材料及び充填材の保管場所

1）撤去、取外した物など不要材は産廃コンテナに廃棄する。

2）使用材料は指定場所に保管する。

７.　塗装時の注意事項

1）気温が-10℃以下、湿度 80%以上の場合は、塗装を避けて下さい。

2）被塗面温度が 60℃以上の場合は、塗装を避けて下さい。

3）施工面に夜露や結露などでの水分が多い場合は、十分に乾燥させて下さい。

4）施工後乾燥までに、降雪、降雨の恐れで濡れる場合は塗装を避けて下さい。

5）強風などで施工面に埃、その他の付着する恐れのある場合は対策を講じて下さい。

6）部材が鋭いエッジの場合、塗料が十分に付着せず塗膜が薄くなり早錆しやすくなりので

グラインダーや専用化工機による角落とし、局面仕上げを行い事が必要。

(日本橋梁建設協会改訂鋼橋防食の Ｑ＆Ａ　2002 年 3 月引用文献②④参照

８.　その他　施工上の注意

1）施工膜厚が均等になるようにすると共に、施工困難な場所にも注意する。

2）施工所形状により施工不可能な箇所がある場合は協議する。

９.　安全関係

1）作業員の安全対策

1. 安全管理体制を確立し、作業員への安全教育を指導。
2. 責任者を定め、当日の作業内容、注意事項を明確に指示し安全を図る。
3. 作業員は責任者の指示に従う。
4. 健康管理を徹底し体調の悪い作業員は作業につかせない。
5. ヘルメット、フルハーネス、服装等安全装備を徹底させる。

6. 空き缶等の廃棄物は責任を持って管理させ、責任者が必ずチェックする。

7. 資材の片付は毎日行う。

2）その他の安全対策

1. 材料等の開缶、攪拌は他を汚さないようにシートを敷いて行う。

2. 引火性のあるシンナー等は安全な場所に保管し、取り扱に十分注意する。

3. 消火器を要所に配置し万一の火災に備える。

4. 指定場所以外の喫煙は禁止する。

5. その他危険と認められる行為はしない。

6. 本工事においては火気の使用は原則厳禁です。

10. 依頼事項

1）本工事に際し下記事項に関し御協力をお願いします。

1. 工事電源の無償支給

2. 作業員の休憩所の提供

3. 資材などの置き場スペースの提供

4. トイレ、洗面所の使用

5. その他